

令和7年度
(2025年度)

「運営に関する計画」

学校目標

「学びに向き合い、心豊かにたくましく生きる子を育てる」



最終評価

大阪市立出来島小学校
令和8年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題**【安全・安心な教育の推進】**

令和 6 年度大阪市小学校学力調査において、「学校のきまりを守っていますか」の項目について肯定的な回答をした児童の割合は 90.9%であった。

「ルールを守る」といった基本的なモラルを定着させていく規範意識、社会性の育成を継続的に行っていく必要がある。また、いじめや問題行動を生み出さないよう、人権教育や道徳教育を中心に、学校教育活動全体を通して互いに支え合うといった意識を高め、温かい人間関係を構築していくことも必要である。

これまで、学年の発達段階に応じた体験学習や地域の方々との交流、ゲストティーチャーとの学習などを通して他者への理解や思いやりを育む活動に取り組んできた。今後も高めていくことが豊かな心の育成には大切であると考えます。

自分たちが住んでいる地域、西淀川区は大規模災害や自然災害に弱い土地柄である。そこで、防災・減災について目を向け、意識を高めていく学習を継続的に行う。保護者や地域に開かれた学校経営を行い、教育コミュニケーションの核として学校が役割を果たしていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和 5 年度において、国語科単元テスト全学年平均点が 80.5 点と指標を上回り、学習内容の定着が見られた。また、大阪市小学校学力経年調査においても、大阪市平均を上回る学年（3 年：社・算・教科合計、4 年：算）もあった。しかし、全国学力・学習状況調査においては、大阪市平均を下回り、児童が身に付けてきた知識を活用するまでには至っていない。新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」に向けて、令和 4 年度より、全児童に「自主学習ノート」を配付し、「自分の言葉でまとめて書く力」を向上させる取り組みを行っている。教科を問わず、児童が興味・関心をいだいた内容から取り組めることから、児童の主体性が育ってきている。今後も継続し、さらに協働的な学びへと取り組ませたい。

全国体力・運動能力、運動習慣調査では、男子、女子ともに合計点が全国平均を上回った。

しかし、児童アンケート「体育の時間はがんばって運動している」と肯定的な回答は 76%にとどまっている。運動やスポーツをすることに対して肯定的に捉える児童を増やし、体力・運動能力の一層の向上を目指す。

【学びを支える教育環境の充実】

令和 3 年度、一人一台端末の配布が終了し、校内の ICT 環境が整備・充実した。協働的な学び、個別最適化の学習へと取り組んでいきたい。

令和 5 年度の月の時間外労働平均時間は、依然として 20 時間にも及んでいる。時間外労働をなくすことで、教員の授業準備や社会の見識を深めたり、ICT 技術を磨いたりする時間を生み出し、児童の学力向上を実現する。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。
- 令和7年度末の児童アンケートの「自分には良いところがある」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、前年度より増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の小学校学力経年調査における標準化得点を、令和3年度より向上させる。
- 特に課題である立ち幅とびの記録を、令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、大阪市平均以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「5年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、90%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートの「学校は、手紙やホームページを通して情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校の決まりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、**82%**以上にする。
★R06:校内児童アンケート（1・2年）100%、経年調査（3～6年）81%
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を**73%**以上とする。
★R06:校内児童アンケート（1・2年）100%、経年調査（3～6年）72%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。
★R06:3年生（現4）0.904 4年生（現5）0.972 5年生（現6）0.980
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を**70%**以上にする。
★R06:校内児童アンケート（1・2年）81%、経年調査（3～6年）68.8%

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の78%以上にする。
★R06:77.6%
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1（「1か月の時間外勤務時間が45時間を超えない」及び「1年間の時間外勤務時間が360時間を超えない」）を満たす教員の割合を93%以上にする。
★R06:92.0%

3 今年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

「学校の決まりを守っていますか」について、学力経年調査では74%となり、目標値である91%を上回ることはできなかった。しかし、具体的な決まりである内容の児童アンケートの「ろうかは歩いている」「チャイムの時間を守っている」の肯定的な回答は87%であった。

月目標を守るために取り組んだ『出来るんジャースタンプカード』についても、その月のクリア条件が月目標とリンクしているため、毎月の児童朝会でその月の目標を確認したり、教室での学級指導を繰り返し行ったりすることで、決まりを守る意識の向上が図れ、その結果、昨年度よりカードの達成者が増えた。しかし、児童の中にはカード達成と決まりを守ることが繋がっていなかったり、カードをつけること自体に意識がなかったりするケースもあった。

「自分にはよいところがありますか」について、学力経年調査では78%となり、目標値である81%には達しなかったものの、昨年度の71%を上回ることができた。

各学年、児童の発達段階に応じた社会体験や体験活動を3回以上実施し、学習に対する意欲や人間関係の土台づくりに取り組んだ。学校全体としても、地域との防災学習や音楽鑑賞会、ハローウオークなどの縦割り班活動も多様な体験活動の一環として実施し、他を認め自分を認める豊かな心の育成へと繋がった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学力経年調査における国語科の平均正答率の向上について、2学年が目標値である0.02ポイントの向上を達成することができた。

特に本年度で4年目となる校内国語科研修においては、研究の視点に基づき「個別最適な学び」からの「協働的な学び」へのつながりの学習方法を積み重ね、この1年間でつきたい力を考えて取り組むことができた。また朝の会・帰りの会でのスピーチやいいとこみや、様々な学習活動の中で自分の考えを表現する機会を設定し、継続して取り組んだり、学習者用端末を利用した活動や自分の考えをノートに記入する活動など、発表の苦手な児童も自分の考えを表現できるよう工夫したりしたことで、学力の向上を図ることができた。

「運動やスポーツをすることは好きですか」について、学力経年調査では66.9%となり、目標値である80%を上回ることはできなかった。しかし、児童アンケートの「運動やスポーツをすることが好きだ」の項目では、最も肯定的に回答する児童の割合は65%であった。肯定的に回答する児童の割合は90%で運動への関心・意欲は高まっている。

また具体的な取り組みとして、カードや掲示物を活用することで目標を達成しようとする意識付けを行うことができた。また教員も積極的に参加し、励ましの声かけを行ったことで児童の意欲につながった。その結果、運動強調週間の実施前と実施後の記録において「なわとび運動」では81.3%の児童が記録を上回ることができ、「かけ足運動」では、72.6%の児童が目標記録を上回ることができた。

【学びを支える教育環境の充実】

学習用端末の活用の数値が90%となり、目標値である78%を大きく上回ることができた。

特にデジタルドリルや調べ学習、資料作成、情報共有の手段など、授業の中で負担なく活用したり、各教科での利用や毎日の持ち帰りを行ったりしたこと活用率の向上が図れた。また、校内児童アンケート「授業でタブレットを活用している」の項目における肯定的な回答（そう思う・まあまあそう思う）も90%であった。

時間外勤務時間上限基準の達成率が94.7%だったため、達成率を上げることができた。また時差出勤や会議の精選により「働き方改革」も効率よく進んでいる。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【安全・安心な教育の推進】

年度目標	達成状況
<p>○ 小学校学力経年調査における「学校の決まりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、82%以上にする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 73%以上とする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】 当該月の生活目標を児童に周知し、規範意識を高める。</p> <p>【指標】 月目標を守るための「出来るんジャースタンプカード」を実施し、レベル3に達する児童の割合を70%以上にする。</p>	C
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 全学年において社会体験や多様な体験活動を実施することを通して、生きる力を育成する。</p> <p>【指標】 各学年、年間3回以上、社会体験や多様な体験活動を実施する。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】

- 毎月月目標を朝会で確認し、教室でも確認、振り返り活動を行ってきたので、月目標がわかりやすくなった。それによって、決まりを守ることを意識して過ごす姿が見られた。その結果、昨年度より出来るんジャーカードに取り組む児童が多くなった。特に、チャイムの時間を守ることについては本年度から予鈴を鳴らすことで大きな効果があった。
- 学力経年調査では「学校の決まりを守っていますか」74%と達成できていないが、具体的な決まりである内容の児童アンケートの「ろうか歩いている」「チャイムの時間を守っている」の肯定的な回答は87%であった。子どもたちの中で出来るんジャーカードに取り組むことと、学校の決まりを守ることが繋がらないため児童アンケートの結果が低くなっているのではないかと考えられる。出来るんジャーカードの達成度は64%と目標を達成していない。これは、年度当初の目標設定が高すぎたと考えられる。
- 高学年に関しては、守れているけどカードを出すのをめんどくさがって(職員室に)提出しない児童もいた。また、廊下を走っている児童に声掛けを行っているが、自発的にやめようと思うことができていない実態がある。

取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- 各学年、児童の発達段階に応じた社会体験や体験活動を通して、学習に対する意欲や人間関係の土台づくりをしている。各学年3回以上は取り組んだ。学校全体としては、地域との防災学習や音楽鑑賞会、ハローウオークなどの縦割り班活動も多様な体験活動の一環として実施し、他を認め自分を認める豊かな心の育成へと繋がった。
- 学力経年調査では「自分には、よいところがあると思いますか」は78%、校内アンケート「自分には良いところがありますか」は86%といずれも目標を達成している。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】

- 「学校のきまり」を明確にし、目標はもちろん決まりについても意識させる取り組みが必要である。また、月目標の見直しも検討する。
- 月目標を意識して取り組んでいる様子が多くの場面でみられるので、今後もスタンプカードを活用しながら規範意識を高める取り組みを実施していく。カードの活用法(児童へのフィードバック・ポイントのつけ方・学級での仕掛けなど)キャラクターの活用などが課題である。

取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- 知識が「経験」になるような体験や、社会性を育てる活動、興味・関心の幅が広がる内容、地域とのつながりを感じることができるようになるなど、体験活動だけでなく事前事後活動も行い、より深い学びができるようにする。
- 体験活動を通して自尊心を育て、自分にはいい所があるという自己肯定感や主体性に結びつくようにする。また、他の児童の良さで自分にも取り入れることや、自分の良さを形だけでなく心からのばしていけるような育成方法を工夫していく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

年度目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。 ★R06: 3年生(現4) 0.904 4年生(現5) 0.972 5年生(現6) 0.980 ○ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70% 以上にする。 ★R06: 校内児童アンケート(1・2年) 81%、<u>経年調査(3～6年) 68.8%</u> 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 校内研究の視点に基づいて、指導法を工夫する。</p> <p>【指標】 言葉や文字、パソコンへの入力など、児童が自分の考えを表現する活動を1日1回以上設ける。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向4 健やかな体の育成】 運動強調週間を設け、運動への関心・意欲を高める。</p> <p>【指標】 年間2回以上、運動強調週間を設けるとともに、運動がんばりカードを用いて、実施後の記録が実施前の記録を上回る児童の割合を70%以上にする。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研究の視点に基づき「個別最適な学び」からの「協働的な学び」へのつながりの学習方法を積み重ね、この1年間でつけたい力を考えて取り組むことができた。その結果、小学校学力経年調査における結果は、2学年は前年度より0.02ポイント以上の向上ができた。 ○ 朝の会・帰りの会でのスピーチやいいところみや、様々な学習活動の中で自分の考えを表現する機会を設定し、継続して取り組むことができた。 ○ 学習者用端末を利用した活動や、自分の考えをノートに記入する活動など、発表の苦手な児童も自分の考えを表現できるよう工夫した。 ○ 学校アンケート「自分の考えを伝えている」の項目で、肯定的に回答している児童の割合は82%(中間評価75%)

取組内容②【基本的な方向4 健やかな体の育成】

- チャレンジカードや頑張りカード、掲示物を活用することで目標を達成しようとする意識付けを行うことができた。また、教員も積極的に参加し、励ましの声かけを行ったことで児童の意欲につながった。その結果、運動強調週間の実施前と実施後の記録において「なわとび運動」では81.3%の児童が記録を上回ることができ、「かけ足運動」では、72.6%の児童が目標記録を上回ることができた。(平均77%)
- 児童アンケートの「運動やスポーツをすることが好きだ」の項目では、最も肯定的に回答する児童の割合は65%であった。肯定的に回答する児童の割合は90%で運動への関心・意欲は高まっている。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

- 今後も、児童の課題を明確にし、授業改善に取り組み児童の基礎学力の向上に努める。
- 児童の発達段階に応じた、考えを表現する作文や語彙数を増やすための学習も必要。また、学年に応じた語彙を授業の中で使っていく、定着させていく必要がある。
- 言葉の意味が分からず文章理解が難しいということが、学習のつまずきになっていることが多い。語彙力を増やしていくために言葉の意味を正しく知ることや、知った言葉を使っていく指導を丁寧にしていく。
- 自分の考えを表現することが苦手な児童に対して、表現しやすい方法や選択肢を考えるなどの工夫が必要。
- 書かれていることを理解するために、「部分も全体も何度も読む」、「物語や資料の大事な部分を選択する」「場面を想像する」などの学びを、「気づいて、わかって、考える」ことが楽しいと思えるぐらい深められるようにしていく。
- ICT支援員や研修を今後も活用していく。

取組内容②【基本的な方向4 健やかな体の育成】

- 今後も運動が苦手な児童も含めて、児童が主体的に取り組めるような活動や工夫を行う。
- 運動の種類は様々あるので、できることをさらに伸ばす、苦手なことや難しいことは工夫をしながら取り組めるようにするなど、自信や関心を高めていく。
- 学校全体で系統立てた目標など立てるとよいのではないか。
- なわとび・かけ足等、後期の活動に偏っていたため、前期にも何かできればよい。
- 学校の月目標と合わせる。

【学びを支える教育環境の充実】

年度目標	達成 状況
<p>○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の78%以上にする。</p> <p>○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1（「1か月の時間外勤務時間が45時間を超えない」及び「1年間の時間外勤務時間が360時間を超えない」）を満たす教員の割合を93%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】 朝学の時間などで、デジタルドリルやタイピングの学習、心の天気の入力を行い、積極的な学習用端末の活用を図る。</p>	A
<p>【指標】 校内児童アンケート「日々の授業の中で、学習者用端末を活用している」の項目で、「ほぼ毎日」と回答する児童の割合を78%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の育成としなやかな組織づくり】 校時や会議をさらに見直し、放課後の時間の確保に努める。</p>	B
<p>【指標】 月ごとの時間外勤務時間が45時間を超える教員の人数を、前年度以下にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】

- デジタルドリルや調べ学習、資料作成や情報共有の手段など、授業の中で負担なく活用することができた。また、各教科での利用や毎日の持ち帰りがあることから、学習用端末の活用の数値が90%と大きく上回り、指標を達成することができた。
- 児童アンケートでは、「授業でタブレットを活用している」の肯定的な回答（そう思う○まあまあそう思うの合計）は90%であった。

取組内容②【基本的な方向7 人材の育成としなやかな組織づくり】

- 「1か月の時間外勤務時間が45時間を超えない」及び「1年間の時間外勤務時間が360時間を超えない」という指標を前年度以下にすることができた。
- 時間外勤務時間上限基準の達成率が94.7%だったため、達成率を上げることができた。
- 授業終了の時間が早くなったため、会議や研修の開始時間を早く設置したり、放課後の業務に使えたりする時間が増えた。
- 教職員一人ひとりの時間の使い方の有効化を図るために時差勤務制度を取り入れた。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】

- 引き続き、長期休暇の課題や朝学、日々の宿題においてデジタルドリルやスタディサプリ、タイピング等の学習を取り入れ、学習用端末の活用を積極的に行っていくようにする。
- 児童用教科書にもQRコードがあるので活用していくようにする。
- 授業でタブレットを活用しているの項目で、『ほぼ毎日』と回答するには、学習單元から考えると利用方法がないこともあるので数値がクリアするには厳しさがあると思われるため、次年度は指標の数値を考え直す必要がある。
- 学習用の端末であるが、学習以外のことに使用している児童も少なくない。指導はしているが使いたくなるようなので、使用してよい場面とそうでない場面を理解させる形で、端末とうまく付き合っていくようにする必要があるのではないか。

取組内容②【基本的な方向7 人材の育成としなやかな組織づくり】

- 引き続き現状を維持していく。
- 教職員一人ひとりの時間の使い方の有効化を図るために、引き続き時差勤務制度を継続していく。